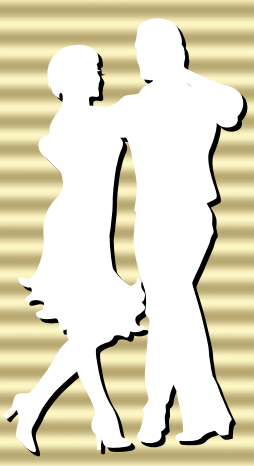
スポーツくじ
toto BIG

Dance Dance Dance



ブレイキンブロック選手権2020

オールジャパンジュニア ダンスリレーション

2020年全国加盟団体代表者正会員会議・定時社員総会



JDSF
公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

2020 No.97
秋

来たときよりもキレイに!

世界に示す、クリーンジャパン

KEEP EVERYTHING MORE BEAUTIFUL THAN IT WAS.

Show the world, CLEAN JAPAN!





JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE

公益財団法人 日本オリンピック委員会

TOKYO 2020

ダンススポーツと医学と私

日本スポーツ協会認定スポーツドクター
日本整形外科学会認定専門医　**竹島 憲一郎**



初めまして。整形外科医の竹島憲一郎と申します。この度はダンサーに多く見られる傷害やダンススポーツにおけるスポーツドクターの役割についてお話をさせていただこうと思います。

まず自己紹介をさせていただきます。2006年に慶應義塾大学医学部を卒業し、初期研修を経て2008年に慶應義塾大学医学部整形外科学教室に入室しました。関連病院での勤務後に、2017年からは日本で82番目に開学しました国際医療福祉大学医学部整形外科学教室の立ち上げに関わらせていただいております。現在は国際医療福祉大学病院をメインに外来診療及び手術などを行なっております。第2～5金曜日の午前は関連病院であります国際医療福祉大学市川病院、第1金曜日の午後は国際医療福祉大学三田病院にてスポーツ外来を開きダンサー（競技ダンス、バレエ）をはじめとしたアスリートの診療にあたっております。

私とダンススポーツの関わりは産まれる前にさかのぼります。父方の祖母がダンスをしていた影響で、父、竹島信夫は学生時代から、伯父は社会人になってからダンスに励んでおりました。（現在、伯父の竹島弘幸はJDSF監事としてお世話になっております）。両親は学生時代にダンスを通じて出会い、私もその後誕生しました。そういうわけで、私にとっては産まれながらにしてダンスが身近にある環境でありました。

一方、幼少時にはダンスをやるようにと両親から言われることもなく（家族でダンスパーティーなどに参加してステップなどは教わることはありましたが）、高校生まではテニスやサッカーに打ち込んでおりました。

大学で医学部に入学し、テニス部に入ることも考えておりましたが、医学部の部活に入ると人間関係が狭くなることを心配していたところ、ちょうどいいタイミングで両親より「競技ダンス部なら医学部以外の人とも知り合うことができ、一生の付き合いになるよ」と言われたこともあり、また、元々の興味もあって競技ダンス部に入部しました。それからはダンススポーツの魅力に惹かれ、4年間の学生生活では東京六大学優勝、東部日本優勝、全日本選抜（夏全）5位、全日本戦（冬全）3位という結果を得て2004年慶応義塾大学競技ダンス部を卒部しました。



競技会で活躍の竹島憲一郎ご夫妻

妻とも学生時代のダンスがきっかけで出会いました。卒部後2人の子供の出産も経て、競技会などに参加しJDSF-A級にまでなることが出来ました。栃木の病院で勤務の際は栃木代表に選んでいただき、三笠宮杯に出場させていただいたのも良い思い出です。現在は少し休んでおりますが、また競技も再開できればと思っております。

さて、私は公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（JDSF）から推薦を賜り日本スポーツ庁認定のスポーツドクターとして現在働いております。スポーツドクターの役割はスポーツ傷害（慢性的な障害や急性に起こる外傷を合わせて傷害と呼んでおります）に対する予防や治療を行なうことであります。ダンススポーツにおける傷害の頻度についてはまだ大規模でのデータはありませんが、バレエなどにおいては1000時間で1.1～2.6回程度と報告されております。足部や足関節の傷害が多いのが特徴です。これはトウシューズで回転やジャンプなどを行うために足部に多大な負荷がかかることが原因と考えられます。

一方、ダンススポーツの競技者の診察をさせていただきますと膝周辺の傷害が多いです。具体的には大腿骨（太ももの骨）と脛骨（すねの骨）の間にある半月板の断裂などに伴う不調です。これは2人が組み合った状態での回転などが多いためと推察しております。原則は十分な保存療法（薬物療法やリハビリなどを行ないますが、改善が乏しい場合には手術に踏み切ることもあります。手術においても断裂している周辺を切除するのか、あるいは断裂部を縫合して温存するかは常に我々を悩ませます。競技者にそれぞれのメリット、デメリットを説明した上で治療方法を選択してもらう様にしております。

スポーツドクターはアスリートがその傷害と向き合う際にどの様な治療法を提示し、その治療法を選択する際に起こりうることなどを十分に理解していなければなりません。今は積極的にリハビリを行うタイミングなのか、あるいは一時的に休むべきなのかなどを判断しアスリートの現場復帰をサポートしていくことが重要になります。そのためには選手のみならず、トレーナーやコーチャーなどの周辺の関係者との綿密な連絡も欠かせません。一人の選手を通したチーム医療の一翼をスポーツドクターは担っていると考えることができます。

最後に、昨今は若年層の活躍も多く見られる様になっており今後のダンススポーツを更に盛り上げてくれることを期待しております。ただ、ジュニアの間は（特に小学生）、「ダンスだけ」をやるのではなく、様々なスポーツや外遊びに触れることでコーディネーション能力を向上していただければと考えております。

「多少痛いところがあっても音楽が鳴れば痛みも忘れて踊れるんです」という不思議な魔力（?）が、ダンスにはあると思います。しかし、痛みが続く場合には一度医療機関を受診してレントゲンやMRIなどでの精密検査をすることをお勧め致します。私も微力ではありますが、今後のダンススポーツの発展に貢献できれば幸いです。

ブレイキンブロック選手権2020を終えて

公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟
ブレイクダンス本部
副事務局長 **白井 健太朗（KENTARAW）**



ダンススポーツのみならず、他競技においても新型コロナウイルスによってほとんどの競技会が中止となってしまった2020年度前期。ブレイクダンス本部は、この状況下で国内のB-BOY 、B-GIRL（選手）の目標となる大会の実施と、ブレイキンのオリンピック競技化に向けていち早く動き出すためになんとか競技会を実施できないかを検討してまいりました。そして本来望む形ではありませんでしたが、選手や大会関係者の安全を考慮し、2020年度のブロック選手権をオンライン予選とリモートマッチ（無観客試合）の形式で実施することといたしました。

ブロック選手権の競技フローとしては、

STEP1：1次予選：SNS投稿による映像審査により各ブロック各カテゴリーの上位4名を選出。

STEP2：ブロック本戦：ブロック毎に用意した会場に上位4名の1次予選の選出者を集め、無観客試合によるトーナメント戦。

以上2つの競技会を勝ち抜いた選手が各ブロックを代表して全日本ブレイキン選手権（無観客試合）で2020年度の日本一の座をかけて戦います。

大会運営の話になりますが、このブロック選手権開催にあたり運営や配信方法など苦労を強いられました。ブロック本戦ではJDSF本部と各ブロックの設置会場とをインターネットで繋ぎ、遠隔で大会の審査を行ないました。この遠隔で本部と各々の会場とをつなぐシステムですが、一般的なミーティングアプリケーションでそのまま繋いでしまうと、音と映像のズレが生じてしまい、ジャッジが表現などのある審査項目に対して正当に採点ができないという問題があり、どう”ズレ”がないようにジャッジのもとに現地映像と音源を届けるか、議論を重ね、試行錯誤しながら方法を模索しました。そして、課題であった”ズレ”が起きないシステムをなんとか構築し、本番までの少ない期間に何度も事前リハーサルを重ねた上で競技会実施に至りました。

しかしながらしっかりと事前準備をしていたにもかかわらず、いざ大会当日になるとシステムが機能しないなどの問題がいくつか起きましたが、オペレーションチームの機敏さと運営スタッフの機動力でなんとか乗り越えることができました。

思い返すと本当に素晴らしい“ワンチームであったな”と思い、ご協力いただいた皆様にはただただ感謝をするばかりです（裏方も戦っています！）。



北海道東北ブロック優勝者（右から）

ユース オープン BBOY 部門 KOHE1（30）
ユース BBOY 部門 HOCT SKEE（17）
ユース BGIRL 部門 KAEDIE（12）
オープン BGIRL 部門 ANNASTY（20）



関東甲信越ブロック優勝者（右から）

オープン BGIRL 部門 AMI（21）
ユース BGIRL 部門 YUIKA（17）
ユース BBOY 部門 RYOGA（17）
オープン BBOY 部門 SHIGEKIX（18）

第2回 全日本ブレイキン選手権



中部北陸ブロック優勝者（右から）

オープン BBOY 部門 SHOYA（18）
ユース BBOY 部門 HIRO10（15）
ユース BGIRL 部門 YUINA（15）
オープン BGIRL 部門 KYOKA（23）



関西ブロック優勝者（右から）

オープン BGIRL 部門 AYUMI（37）
ユース BGIRL 部門 KONOHA（15）
ユース BBOY 部門 TSUKKI（14）
オープン BBOY 部門 TOA（22）



中国四国ブロック優勝者（右から）

オープン BBOY 部門 LANDALL（20）
ユース BBOY 部門 ISSIN（15）
ユース BGIRL 部門 DORI（15）
オープン BGIRL 部門 AU（30）



九州沖縄ブロック優勝者（右から）

オープン BGIRL 部門 YU-NA（19）
ユース BGIRL 部門 RIKO（16）
ユース BBOY 部門 FUMA（17）
オープン BBOY 部門 RYOSPIN（22）

11月21日㈯、世界への一歩となる全日本ブレイキン選手権ライブ配信決定!

私はと言いますと、東北から九州までの6会場の全てを回り、会場設営と現地MCを担当いたしました。会場に集まった選手は最初に検温と手指消毒をし、会場に入り、当日の流れや場当たりなどのオリエンテーションを行ない、その後は大会開始に向けてウォーミングアップなど準備をしてもらいました。会場での選手の様子を一通りみてきた訳ですが、参加選手は時折笑顔は見せるものの、しっかりと大会に向けて調整していたようでバトルになると鋭い眼差しでバトルに臨んでいました。

このコロナ禍においても、選手達の心のこもったムーブを見ることができたことを本当に嬉しく思いましたし、普段と違う環境にもかかわらず本気でこの大会に向き合ってくれていることに大変感動いたしました。選手が負けてしまった後に悔しそうにフロアを去っていく姿や、勝った後に見せる笑顔、選手全員が地域や仲間、家族を背負って戦う姿にそれぞれストーリーがあるなと実感しました。

私自身ブレイキンを始めてから18年ほどが経ち、ある程度の国内選手のことは把握しているつもりでしたが、今回見たことのない選手や、以前に見たことある選手でも技術やオーラが増しているなど、“日本選手の層の厚さに未来は明るい!”本当にそう感じました。

6ブロック全てを終え、代表選手が出揃いました。錚々たる選手たちが名を連ねる中、私が今回注目したいのはユースのB-BOY（男子）部門です。北海道東北からHOCT SKEE（ホクトスキー）、関東甲信越からRYOGA（リョウガ）、中部北陸からHIRO10（ヒロト）、関西からTSUKKI（ツッキー）、中国四国からISSIN（イッシン）、九州沖縄からFUMA（フウマ）と、世界的に見てもユースではトップレベルの選手が全日本ブレイキン選手権の舞台で顔を合わせることになります。2024年パリオリンピックの時点で間違いなくレースに食い込んでくる選手達ですから、今年のユースのB-BOY（男子）のカテゴリーは大変注目しています。また、ユースB-BOY 部門のみならず、他の部門もハイレベルな戦いになることが予想されますし、ぜひご覧いただき一緒に盛り上げていただけると嬉しいです。

近年の実績として2018年のブエノスアイレス開催の第3回ユースオリンピックでも日本代表のRAM（女子部門）が金メダル2個、SHIGEKIX（男子部門）が銅メダル1個と、世界選手権でも必ずと言って良いほど上位に食い込んでくるような力を持つ日本のブレイキンですが、今回のブロック選手権を通じて、より強靭なパワーや技術力の向上に力を入れていかなければならないと思いました。

ロシア、中国、ヨーロッパ諸国などの各国DSF（ダンススポーツ連盟）はすでに、国内競技会や強化合宿を実施しているなど、目に見えて選手強化に力を入れ始めています。未だIOCからの競技追加の正式発表がなされていないものの、ブレイキンが正式競技になることは内定している訳ですから、JDSFとしてはどの国よりも先をゆくつもりで一丸となりメダル獲得に向け尽力していきたいものです。

話が逸れましたが、来たる11月21日（土）、川崎市とどろきアリーナにおいて世界への一歩となる全日本ブレイキン選手権（三笠宮杯併催）が開催されます。皆様是非ライブ配信にてご覧いただき、モニター越しに応援してください!

バトル風景



関東甲信越ブロック オープンBBOY部門決勝



関東甲信越ブロック ユース BGIRL部門決勝



関西ブロック オープンBBOY部門決勝



関西ブロック ユース BGIRL部門決勝



MCの石川勝之（katsu one）JDSF理事



DJのTEE



MCのKENSAKU



北海道東北ブロック ユースBBOY部門決勝



九州沖縄ブロック オープンBBOY部門決勝



中部北陸ブロック ユース BGIRL部門決勝



中国四国ブロック ユース BBOY部門決勝

ワールドマスターズゲームズ 2021関西は1年延期!!



関西を中心に、来年5月に行われる予定だった生涯スポーツの国際大会「ワールドマスターズゲームズ（WMG）2021関西」（JDSF広報誌DDD82号等でご案内）について、大会組織委員会は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、1年程度延期すると発表しました。延期後の開催日程は、2022年5月を軸に調整されます。1985年にカナダ・トロントで始まったWMGの延期は初めてのことです。

ダンススポーツは21年5月29日（土）30日（日）、和歌山市の和歌山ビッグウェーブで開催予定でした。

今大会は過去最多となる国内3万人、海外2万人の参加を想定。参加予定者は50代以上が半数を占め、コロナで重症化しやすいとされる高齢者が多い。滞在期間も長く、国内選手で平均9・4日、国外選手で15・8日を見込んでおり、「競技だけならやり遂げられるが、選手が交流し、競技後に観光も楽しんでもらう大会理念を全うするには、来年5月では難しい」と判断されました。

公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟（JDSF）2020年度定時社員総会（8月30日）2020年度全国加盟団体代表者・正会員会議（8月23日）



代表者・正会員会議のハブとなったDTC（8月23日）

2020年度定時社員総会と同全国加盟団体代表者・正会員会議が開催されました。

春先から日本を含む全世界を震撼させております新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の状況下、従来とは大きく様式を変更しての実施となりました。今回採用されたのはインターネットによるWeb参加を基本とした会議様式、そして開催日程も従来とは異なったものとなりました。

まず、昨年までは定時総会に先立って行われてきました代表者・正会員会議は、2020年8月23日（日）の開催となり、その1週間後の8月30日（日）定時総会が開かれました。

全国加盟団体代表者・正会員会議

8月23日の代表者・正会員会議は、東京有明のDTCをハブとしたWeb会議形式で同日13時に開会しました。初の試みとなったオンラインによる全体会議であることから、各ブロックごとに事前のZoom勉強会を経ての実施となり、DTCには山田淳専務理事、金子和裕常務理事、山口剛業務執行理事をはじめとした事務局がセッティングし、およそ80人を超える大多数の正会員はオンラインでの参加となりました。

岸尾政弘総務部長によるオリエンテーションに続き、冒頭では群馬県での開催予定が新型コロナウイルス感染症拡大のために残念ながら中止に至ったオールジャパンジュニアダンススポーツカップについての報告が行われ、会議は「新型コロナウィルス問題とダンススポーツの未来」と題した山田専務理事の発表から始まりました。続いて「2020年度組織人事」（山田）、「定款変更、会費に関する規定改正等について」（岸尾）、「システム開発状況の報告」（佐倉文彦理事）。「JDSF大会アンケート調査報告」、金城庸夫ダンススポーツ医科学研究部長によるダンスと健康などに関する考察などが行われました。


Web参加者を前にした金子新事務局長


齊藤斗志二会長の社員総会開会挨拶


議長に選出された日吉東京都連理事長

ここで小休止を挟み、後半の「2019年度事業報告」（山田）、「同決算報告」（川上勲経理部長）、「2019年度のレビュー」（山田）、「直近の新型コロナウィルス対応方針」（山田）、「関東甲信越ブロックPDによる競技会再開事例」（篠田龍佑PD関東甲信越ブロック運営委員長）、「競技会再開に向けたガイドライン」（山口）、「ダンス界の存続と加盟団体の役割」（金子）、「コロナについての現状アンケート調査」など数多くの内容が報告されました。（カッコ書き内はすべて発表者）。

続いて16時前からは、オンラインでの全員参加によるワークショップ「コロナ禍に向けた連盟運営について」が実施されました。中道俊之業務執行理事のオペレーションによって、グループ別に活発な意見交換が行われ、翌週の社員総会予定を確認して半日に及んだ会議は終了しました。


全員参加のワークショップを開始



グループ別意見交換をまとめる

定時社員総会

例年、代表者・正会員会議の翌日に開催されてきた定時社員総会でしたが、本年は1週間のインターバルを置き、8月30日(日)14時40分から主会場を有明DTCとするWrb会議併用で実施されました。

総会に先立って14時から行われてきた記念講演会では、スポーツ庁参与の大塚眞一郎氏が「コロナウイルス問題とスポーツ界のあり方」をテーマにお話を披露されました。同氏は(公財)日本トライアスロン連合(JTU)専務理事、国際トライアスロン連合(ITU)副会長を務められるとともに、(公財)日本オリンピック委員会(JOC)理事としても活躍されています。専門のトライアスロン競技のケースを取り上げ、コロナ禍のなかでのスポーツとその大会運営についての含蓄に富んだスピーチには、社員総会出席予定者に加え、Webで講演を視聴した会員各位にも有益なアドバイスとなったことと思われます。

定刻の14時40分、岸尾政弘総務部長からの開会の辞に続き、齊藤斗志二会長が挨拶に立ち、春先からの未曾有の状況下でもダンススポーツのため一致団結していきたいと話されました。

続いて総会は定員数の確認へと移り、総数98人のうち会場に6、委任状16、Web参加の66をあわせた出席数88となり、総会は有効に成立することが確認されました。引き続き、議長の選出に東京都ダンススポーツ連盟から日吉俊彦理事長が指名され、同じく神奈川県、千葉県会員が議事録署名人と決定承認され、着席した議長の進行で総会議事が開始されました。

主要な議題は、事前に案内されたとおり第1号から第5号の以下内容でした。

第1号議案　2019年度事業報告および決算の件
第2号議案　役員選任の件
第3号議案　定款変更の件
第4号議案　会費に関する規定改正の件
第5号議案　2021年度正会員選挙に関する選挙管理委員長等の指名の件

上程順に従って、まず第1号議案の報告について山田専務理事が説明を行いました。添付の事業報告の総括に関しては、おもにブレイキンを中心とした「ダンススポーツのオリンピック競技種目化に向けた活動」、Asian DanceSport Games 2019 in TAKASAKI(群馬)、Asian World DanceSport Festival 2019（大阪）などの「国際貢献」、公益目的事業でのPD関連部門の活動について等が中心となりました。財務諸表の詳細については経理部長が説明し、鈴木一夫監事が幹事団を代表して報告書に準じた監査報告を行い、可決承認しました。


DTCに来場した参加者たち

続いて、第2号議案では山田専務理事が、石川勝之ブレイクダンス本部長の理事選任の承認を図り原案通り可決されました。

岸尾部長が定款変更に関する第3号議案について説明し、内閣府からのガイドラインに基づいて協会の基本財産に関する条文追記承認を図り原案通りの可決となりました。

第4号議案は同じく岸尾部長からの説明による、会費に関する規定改正の件でした。会員範囲の拡大で多少複雑になってきた会費の内容を整えるための改正で、原案通り承認されました。

そのまま議案は、第5号議案の2021年度正会員選挙に関する選挙管理委員長等の指名の件に進みました。これは2021年6月1日から2023年5月31日が任期の正会員選出のための選挙管理委員会委員長と管理委員について。委員長に埼玉県ダンススポーツ連盟の高橋和代氏、管理委員には茨城県ダンススポーツ連盟吉川英司氏、事務局から岸尾政弘氏の再任が承認されました。

その後、総会は報告事項へと進み、

報告事項1　新型コロナウィルス問題に係る喫緊の課題への迅速な対応と今後の事業のあり方について
報告事項2　機構改革について
報告事項3　都道府県体協未加盟県の加盟促進状況
報告事項4　ガバナンスコードに対応した諸規定の制定と改訂について

の4テーマが報告されました。

報告事項1、2についての報告は山田専務理事から行われ、新型コロナウイルス感染症問題長期化の中、連盟事業継続を最優先に2020年度の重点施策として、会員の継続登録確保のためのコミュニケーション、全国際競技会の主催中止、三笠宮杯など一部大会以外の全国規模競技会の主催中止等の内容説明がありました。また、構造改革に伴う主な人事として金子常務理事を事務局長、コンプライアンス委員会委員長を連盟法務顧問の多賀啓弁護士へという内容などが報告されましした。

中道理事からの報告事項3、岸尾部長による報告事項4の説明に続いて、2種加盟団体から来場とWeb参加したNPO法人日本車いすダンススポーツ連盟の四本信子理事、NPO法人日本サルサ協会の高取美佐子理事からの挨拶があり、定刻の16時過ぎに2020年度定時社員総会が終了しました。


日本車いすダンススポーツ連盟の四本信子理事


日本サルサ協会の高取美佐子理事

オールジャパンジュニアダンスリレーション

みんなで繋ぐダンススポーツの輪

You Tube Live 8月22日(土) 13:30～14:30配信



ジュニア育成部長
溝口　稔

今年はオールジャパンジュニアダンススポーツカップが第15回目となり、高崎アリーナで開催予定でした。1月から実行委員会を立ち上げ、開催地群馬県連盟の方々とも連携し、いろいろと準備して参りました。しかしながら、ご存知の通り3月頃から新型コロナウイルスが世界中に蔓延したのです。

オールジャパンジュニアダンススポーツカップは、2006年静岡市で第1回を開催し、毎年開催されてきました。年々参加者も増え、子どもたちもこの大会を目標にして練習し、頑張ってきた成果をライバルと競い合い、またダンススポーツを目指す多くの仲間とも触れ合って交流できるというとても重要な大会になって参りました。

今年も子どもたちのモチベーション維持のため何とか開催したいと考え、競技区分も大幅に削減し、感染予防対策を施して、何とか開催できないかといろいろと検討しました。また、独断的な判断にならないように、参加者、保護者、指導者など関係者にアンケートをとりました。

アンケートの結果は、159件の回答を得られ、開催の可否については約半数の方が開催を望んでいましたが、コロナ感染の不安、特に遠距離から参加する方は行き返りのバス移動の不安、また学校の休校の影響で学業習得への不安、夏休みの減少があり、遅れた学業をとり戻すことを優先したいとか、練習不足による不安、開催時期が8月で熱中症の心配などの意見が寄せられ、中止はやむを得ないという結論になりました。

子どもたちはこの大会を楽しみにしていました。ジュニアは年齢制限もあり、その年齢区分でトップを目指そうと努力している子もたくさんいます。中には、第2回大会から欠かさず参加して今年が高校3年生で最後の大会になるということで、楽しみにしていた選手もおり、とても残念気な持ちになりました。

そこで、子どもたちのモチベーション維持と、日頃ダンスを楽しんでいる子どもたちへの励ましが少しでもできないか、また、全国でダンスを楽しむ仲間の交流を図ることができないかということで、オンラインでの行事を考え、取り組みました。

その結果、YouTubeLiveを使って、今回の「JDSFオールジャパンジュニアダンスリレーション」という形で行なうことと致しました。マーケティング部・秋田幸子部長からブルボンDST選手、OB・OG選手の協力をお願いし、8月22日土曜日13:30～14:30にDTCを基地として全国ジュニアサークルに発信することとなりました。内容はブルボンDSTのOB・OG大西大晶・咲菜組のレクチャーと演技発表、五月





大西大晶・咲菜組のレクチャー

女組始めブルボンDST選手の演技発表、それから全国各地のジュニアサークルから寄せられた動画の発表などを加えて、1時間で、サブタイトル「みんなで繋ぐダンススポーツの輪」というライブ配信です。

開始早々からYouTube Liveのチャット（★注）には、続々とコメントが寄せられました。リモートで参加しにくいかと思いましたが、多くの方の参加を頂き、チャットの中にはライブで行なうより積極的に率直なご意見、ご質問が寄せられました。現代の子どもたちはオンラインに慣れていることを実感、現代社会になかなか付いていけない私ですが、withコロナを生き抜く、新しい生活様式にすぐに溶け込ん

で、ピンチをチャンスに変えるたくましさも感じられ、大変頼もしく思いました。

参加当日ライブで180人ぐらいの参加があり、その後の再生回数は1440回ほどになりました

大西組のレクチャーも解りやすく、程よいテンポで、明確に話して素晴らしかったです。

模範演技もコロナ禍の中で、なかなか思うように練習できない中を、良く練習していることを伺わせる演技でした。ブルボンDSTの選手も素敵な踊りを披露し、サークルからの動画も活動の活発さと、健在であることが見られました。（株）ブルボン様には、参加したジュニアサークルの子どもたちにお菓子の提供いただきました。誠にありがとうございました。8月末にジュニア育成部員で作業をして、参加した41サークルの皆様に配布いたしました。

コロナ禍の中で何とかダンスという文化を繋げていくため、リモートという手段は新しい方法として有効だと実感できました。リモートの良さは交通手段を使わず、広域に電波で一瞬につながりあい、伝え合うことができることですが、ただ、あくまでいわゆる「なま（生）」ではないので、「リアル（実）」を伝えるには限界があることも意識して、リモートを活用した催しを行なうべきと思います。

ジュニア育成部としても新規のジュニア指導員を養成するための講座をリモートで行うなどwithコロナの時代に合った事業を計画して参りたいと考えています。

最後になりましたが、今回の開催に当たり、（株）ブルボン様、マーケティング部･秋田幸子部長、大西大晶･咲菜組、五月女組始めブルボンDST選手の皆さん、技術的な面で多大にお世話になりました管理部・大塚健次部長、そしてジュニア育成部員の皆様には大変感謝申し上げます。部長としては遠距離のため当日DTCにも行けず、皆様のGood Jobを見守るだけでしたが、結果、皆で輪になって繋がれて、とても成果が上がったと感じております。

★インターネットを介してリアルタイムに複数の人が文字を入力して会話する仕組み





















ダンススポーツフェスティバル in 東京 2020

駒沢オリンピック公園体育館／2020年10月17日(土)・18日(日)

東京都ダンススポーツ連盟などが主催する DSF in 東京2020 が開催されました。国内ダンススポーツの最高峰として、毎年秋に開催される三笠宮杯全日本選手権大会が今年はブレイキン大会併設などによって２日間開催となり、その最終選考会を兼ねて、従来、三笠宮杯前日に実施されていた大会も独自日程によって２日間実施されました。

新型コロナ感染防止対応競技会として詳細に準備された大会は無観客で開催され、感染防止を最優先に事前記入の参加者チェックシート提出と検温、会場内では常時マスク着用（競技中のみマウスシールド可）などが出場条件として設定されました。

会場となった駒沢体育館では選手控えスペースに1組あたり４㎡を確保した上で、余裕を持った一面設定の競技スペースを設置し、１ヒートあたりの出場組数は８組程度以下に抑えるとともに、決勝戦を除いて競技時間は60秒程度以下とした競技となりました。

１日目、10月17日(土)の実施競技は三笠宮杯選抜戦の最終選考会を筆頭に、JDSF３級戦からC級戦までのスタンダードとラテンをあわせた合計12競技に172組のエントリー。11時の早坂健一実行委員長の開会宣言からスタートした競技は、大会終了まで大いに盛り上がりました。

続く２日目の18日(日)は、(公財)東京都スポーツ事業団理事長杯をかけたJDSF A級戦をはじめ、同B級戦のスタンダード＆ラテン、シニアⅡA級戦の同じくスタンダード＆ラテンに同B級戦スタンダード、さらにシニアⅢA級戦、同B級戦のスタンダード＆ラテンという合計11競技に125組のエントリーがありました。こちらは10時の開会宣言からの午前中にラテン競技、午後にスタンダード競技を実施し、順調な大会進行で終了予定時刻の前に、熱い戦いに幕が下ろされました。

両日とも、多くの競技選手が口々に競技会参加の喜びを語り、withコロナの予想が避けられないなかでも来年以降のダンススポーツ参加に希望をつなぎ、選手だけでなく大会運営者を含む関係者全員が大きく勇気づけられる期待以上の大会となりました。



待ち望まれた
DSF in 東京2020


多くの選手たちが
駒沢体育館に集う


入場前の体温チェック


選手受付もコロナ感染防止シフトで


早坂健一実行委員長の
開会宣言


山口剛審判長の三笠宮
杯最終選考会諸注意

三笠宮杯全日本選手権大会 最終選考会


三笠宮杯選抜戦のスタンダード優勝
綾野晃志郎・長澤穂乃花 組
(目黒区)


スタンダード準優勝
志比悠熙・志比菜々子 組
(北海道)


ラテン第3位
今西竜矢・今西心菜 組
(認定ダンス教室)


ラテン準優勝
大矢健太・寿 涼雅 組
(神奈川県)


三笠宮杯選抜戦のラテンを制した
海老原竜太・須田美咲 組
(同スタンダード第3位 千葉県)


JDSF C級戦スタンダード　表彰式


JDSF C級戦ラテン　表彰式


JDSF D級戦スタンダード　表彰式


JDSF D級戦ラテン　表彰式


JDSF 1級戦スタンダード　表彰式


JDSF 1級戦ラテン　表彰式


JDSF 2級戦スタンダード　表彰式


JDSF 2級戦ラテン　表彰式


JDSF 3級戦スタンダード　表彰式


JDSF 3級戦ラテン　表彰式

東京都スポーツ事業団理事長杯


JDSF A級戦スタンダード＆
ラテン優勝
大西大晶・大西咲菜 組(富山県)


A級戦スタンダード準優勝
岩崎将之・中山絵里加 組
(神奈川県)


A級戦スタンダード第3位
飯沼孟大・馬場えりな 組
(神奈川県)


A級戦ラテン第3位
押川慧悟・和田知世 組
(神奈川県)


A級戦ラテン準優勝
海老原拳人・タカギルナ 組
(千葉県)


JDSF A級戦スタンダード表彰式


JDSF A級戦ラテン表彰式










JDSF B級戦スタンダード表彰式


JDSF B級戦ラテン表彰式


JDSF シニアⅡA級戦スタンダード 表彰式




JDSF シニアⅡA級戦ラテン 表彰式


JDSF シニアⅡB級戦スタンダード 表彰式


JDSF シニアⅢA級戦スタンダード 表彰式




JDSF シニアⅢA級戦ラテン 表彰式


JDSF シニアⅢB級戦スタンダード 表彰式


JDSF シニアⅢB級戦ラテン 表彰式



2020年11月21日(土)ー22日(日)　会場:川崎市とどろきアリーナ
共催:川崎市　特別協賛:株式会社ブルボン　特別後援:毎日新聞社

第40回 三笠宮杯ダンススポーツ選手権は、「新たなる挑戦！リモート観客参加型!!」

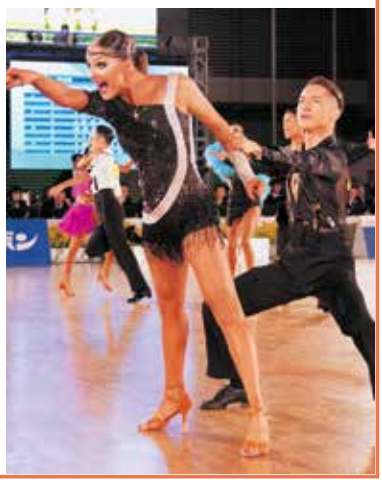
今年の三笠宮杯は、11月21日・22日、川崎市等々力アリーナにて開催され、第40回という記念すべき大会となります。コロナ禍にあって選手・役員全員のPCR検査実施と感染防止策の徹底を図り、無観客試合となります。例年と大きく異なるのは、「新たなる挑戦！リモート観客参加型!!」として開催されること。三笠宮杯の新たなる価値を追求し、無料YouTubeライブ配信をベースとした、ツイッター、インスタグラム、フェイスブック、など、SNS参加型の画期的な大会となりますので、ダンススポーツの醍醐味や楽しさを誰もが存分にご堪能いただける競技会となります。



ご報告(Facebookより)　三笠宮杯に関して　藤井創太

コロナの状況下になり、3月から2人で自国で練習をしていました。
ダリアのいるウクライナの規約で彼女は自国から出れないので私たちは練習の拠点スロベニアに行くことはできませんでした。
そして9月末にウクライナの上陸許可が下りたので10月頭に私が入国してダリアとの練習を再開しました。
同じく10月に入って日本政府から海外から来日する外国人のビザの申請方法が発表されました。JDSFの担当者の方とすぐに申請をしてダリアのビザの発給を待っていましたが、コロナの影響もあり到着してから2週間の待機期間を合わせると三笠宮杯まで日程を逆算しても間に合わない状況になりました。このような経緯があり今回は三笠宮杯に出場できなくなりました。多くの方にサポートしてもらってここまでやってきたので本当に悔しい気持ちしかありません。本当は優勝をしてSNSで報告したかったのですが、このような形になってしまって残念です。

選手のみんなには僕の分もダンスを楽しんで欲しいです。
来年に向けて切り替えて頑張ります。



三笠宮杯特設ページ　http://www.jdsf.or.jp/event/mikasa2020/

新型コロナ感染防止徹底のための出場(入館)条件

- 全ての出場選手は、JDSF費用負担による所定のPCR検査を受け、陰性であること。(1回で土日有効)(この検査で陽性と診断された人は、その後に自ら医療機関による検査で陰性証明を取らない限り入館できません)
- 万全の安全対策の一環として、館内人数を最小限とします。出場選手の他には指定された大会役員以外、観客も一切入場できません。観戦はYouTubeライブ配信をご覧ください。(詳細はホームページで案内予定です)
- 出場選手のコーチ/トレーナー/保護者いずれかの同伴を、出場選手のエントリー時の特例申請により認めますが、選手と同様のPCR検査を受ける必要があり、その同伴者の検査等に要する費用は自己負担となります。
- 当日の入館者は、マスク着用の上、所定の様式に記載された健康チェックシートを持参して受理されるとともに、入館時の体温測定で37.5度未満であると確認された人に限ります。
- 使用したペットボトル、交換したマスク、弁当箱その他のゴミは、配布のゴミ袋で必ず自宅まで持ち帰ってください。
- 大会後も、帰路での打ち上げや多人数での食事会などを禁止します。

(一部略)

Chacott SPECIAL SALE

〈好評につき第3弾〉開催中！

※2020年12月末まで予定

社交ダンス商品取り扱い **全店舗** で **2020最新ウェア** **社交ダンス関連※全商品** ※一部商品を除く **30%OFF**



シューズは2足以上お買い上げで2足目以降 50%OFF

こちらもお得 レディース：22.0cm以下・24.5cm以上
メンズ：25.0cm以下・27.5cm以上は1足でも50%OFF

※FREEDシューズは除く

最新も含むドレスが最大 90%OFF

〈店舗限定〉
ダンス館渋谷
横浜店・札幌店
心斎橋店
名古屋店・福岡店



※写真はイメージです

レディース・メンズウェアお買い得商品（最大70%OFF※店舗限定）あり

お近くのチャコットへお越しください

ダンス館渋谷：TEL.（03）6861-5488
横 浜 店：TEL.（045）311-0421
大 宮 店：TEL.（048）658-5007
新 潟 店：TEL.（025）222-0606
京 都 店：TEL.（075）212-5731
神 戸 店：TEL.（078）334-7745
広 島 店：TEL.（082）541-2015
松 山 店：TEL.（089）943-2781
熊 本 店：TEL.（096）312-7751
吉祥寺店：TEL.（0422）23-1501
千 葉 店：TEL.（043）223-5027
札 幌 店：TEL.（011）232-1412
金 沢 店：TEL.（076）267-6582
心斎橋店：TEL.（06）6214-6030
岡 山 店：TEL.（086）801-5861
高松レインボーロード店：TEL.（087）815-1876
福 岡 店：TEL.（092）711-0211
町 田 店：TEL.（042）720-2435
柏　　店：TEL.（04）7167-3733
仙 台 店：TEL.（022）225-7441
名古屋店：TEL.（052）855-3122
【11/6（金）名古屋店 移転GRAND OPEN!】
※現店舗の営業は10/28（水）までとなります。

くわしくはWebサイトをご覧ください

Chacott

ご来店の際は感染防止、ならびに皆さまの安全・安心のため、マスクをご着用ください。体温が37.5度以上の方のご来店はお断りいたします。
入場制限を設けさせていただく場合がございます。ご了承ください。
チャコットでは、従業員のマスク着用・検温・手洗いうがいの徹底、店内の換気・什器・備品の消毒などの対応を行い、安心してお越しいただけるよう心がけております。

チャコット株式会社　会員証提示による割引適用について

2021年2月末日を持ってチャコットはボールルームダンス事業から撤退する事になりました。事業撤退に伴いまして、今まで貴団体JDSF会員証のご提示にて行ってまいりました割引サービスに関しても終了させて頂きます。皆さまには長きに渡りご愛顧いただきまして感謝申し上げます。弊社では2021年2月末まで現状と変わらず、誠意をもって対応してまいりますので、諸事情ご賢察の上、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

なお、在庫売り尽くしセールも各店で行っています。

チャコット株式会社　取締役販売部門総括担当　**北沢 昌彦**



www.toto-dream.com　www.toto-growing.com　19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

ダンス・ダンス・ダンス
第97号（AUTUMN）
令和2年12月発行

■発行人／山田　淳（公益社団法人日本ダンススポーツ連盟専務理事）
■編集人／神宮周二（公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部相談役）
■編集長／佐藤篁之（公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部長）
■企　画／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部
■発行所／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟
〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階　TEL.03-6457-1850　FAX.03-6457-1857
http://www.jdsf.or.jp

ⓒ本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。